

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻現 代社会学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

【解答】

【I】 (1) ④ (2) 下線部(b)を文脈に即して訳すなら、「このような『おさまりの悪さ』」となる。自らが、どこに行ってもその場から浮いているということである。下線部(a)の概念は「ラディカル・フェミニストという集合的アイデンティティ」である。「ラディカル・フェミニスト」としての共通の利害や経験に由来する、「私たち、ラディカル・フェミニストとは誰か」という共有された、集団の定義を意味する。「ラディカル・フェミニスト」という集合的アイデンティティを有する女性たちは、「一般の」女性たちのあいだにいる時のみならず、より「古典的な、主流派の」フェミニスト集団と接する時も、自らの「おさまりの悪さ」を感じざるをえないのである。(3) 1970 年代のラディカルな女性運動は、政治と日常生活の織物を、新たな高みへと引きあげた。意識覚醒集団やそれ以外のところで、女性たちは、世界に対する自らの理解を再考することを目的として、自らの経験と政治を論じたのである。

【II】 いっぽうの残虐行為は、それへの対応としての残虐行為を引き起こす傾向がある。イデオロギー的な双極化のせいで、どちらの側も自らの行為が残虐行為だとは考えない。このあからさまな道徳的盲目性は、敵の目からみれば、相手側が道徳的にみて人間以下の存在であることの証明となる。

双極化とは、集団を善とみなし、集団の境界の外側にあるものを悪とみなす、デュルケーム的な過程の強烈化である。強烈な紛争は、ある部族的な儀礼において集団を統合する。その儀礼によって、デュルケーム学派が論じたように、聖なるものの源泉であり、善と悪の社会的構築の基礎でもある、明白な感情が与えられるのである。紛争がエスカレートするにつれて、双極化も増進する。すなわち、敵は、邪悪で、節操がなく、間拔けで、醜く、ばかげており、臆病で、弱い――すべての点で否定的なものとされる。これに対して、わが方は、ますます、善良で、道義を有し、知的で、勇敢であり、他のすべての美德も備えていると見なされるようになる。

【出題の意図】

【Ⅰ】は、フェミニズムと社会運動論に関する英語の研究文献の内容を的確に理解し、その要点を日本語でまとめることができる能力の程度をみることを意図している。【Ⅱ】は、社会的紛争に関する、理論的抽象度が高い英語の研究文献の内容を、その学史的背景も含めて読解し、読解した内容を、論理的に整った日本語の文として訳出できる能力の程度をみることを意図している。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。